第五講　傍線部理由説明問題解法　30分

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

都市は、巨大な権力がその目的を達成する拠点として、そこに多種多様な権力が集積することによって、さまざまな施設をもつ場所として建設された。したがって、都市はそうした施設を作り出すだけの能力をもつ権力の担い手が必要と判断すれば、どこにでも建設された。(1)

都市が紀元前八〇〇〇年や前六五〇〇年に遡（さかのぼ）るイェリコ（注1）やチャタル・ヒュクの時代から現在にいたるまで〈歴史貫通的〉に存在するのは、その成立基盤が「権力」にあったからである。また、都市が洋の東西を問わず〈通文化的〉に地球上のいたるところで建設されたのも、都市の成立基盤が「権力」にあったからである。多種多様な目的をもって活動する権力は、絶対的（注2）余剰農産物のない農村からでも〝社会的余剰農産物（注3）〟を作り出したのである。(2)

［ア］　I 都市はそれぞれが個性をもっており、どれひとつとっても同じものはない。なるほど、都市は先に指摘したように、歴史貫通的、通文化的

的存在である。それにもかかわらず、都市がそれぞれの「時代」や「文化」を無視しては考えられないのもまた、都市の中核をなすのが権力であるという、その同じ事実によっている。権力の構成のされかたは時代や文化によって、実に多様なものとなっている。(3)

　都市は――その都市的定住を惹起（じゃっき）している主要な権力が政治、経済、宗教など何であれ、またその組織形態がいかなるものであれ――権力の拠点として、農村と比べてはるかに豊かな生活を営む場所となっていた。都市の繁栄がしばしば国家の繁栄と二重がさねにして語られるのも、経済的権力をはじめ都市の多種多様な権力の活動には、何らかのかたちで安全を保障する国家権力を必要としたからである。(4)

　Ⅱローマの繁栄がローマ帝国の繁栄として語られたり、長安の繁栄が唐帝国の繁栄として語られたり、バクダッドの繁栄がアッバース帝国の繁栄として語られたりするのは、このためである。(5)

　ところで、安全の確保が人間の生活に欠かせない以上、人びとは多大な犠牲を払ってでも防衛に努めなければならなかった。そのため人びとは都市の周囲に城壁を廻らしたり、国境にヨウサイ[a]を建設したり、膨大な常備軍を配置したりして、万一に備えてきた。防衛にともなう人的、物的資源の動員は、都市を活気づける。しかしその負担は人びとに［X］される

しかない。軍備は都市を活気づけるとともに、人びとの生活を徴税や徴兵を通じて圧迫していく。防衛が人びとの活動に足枷（あしかせ）をはめるのは、都市の周囲の城壁や国境といった物理的な施設ばかりではなかった。軍備は人びとの生活に容赦なくのしかかっていった。軍備は都市の［ I ］にも、［ II ］にも寄与したのである。(6)

巨大な軍事支出はかえって国家を圧迫する。冷戦下における米ソの軍拡競争はとどまるところをしらなかった。はてしない軍拡競争は、両国の経済を水面下で蝕（むしば）んでいった。軍拡競争はソヴィエト崩壊の大きな要因ともなったのである。その一方、軍拡競争はその勝者となったはずのアメリカにも後遺症を残している。(7)

大規模な戦争ともなれば、どこの国でも国家の興亡をかけた一大行事となる。Ⅲ戦争は大量の人的、物的資源を動員する点で、すぐれて都市的行為である。勝利に必要な物資の調達に国境はない。このため戦争は軍事物資の供給を通じて、他国の都市を活気づけた。朝鮮戦争は朝鮮の都市を破壊する一方で、太平洋戦争で破壊された日本の都市を急激に復興させた。また、ベトナム戦争はベトナムの都市を破壊し、アメリカの都市を疲弊させる一方で、日本や韓国の都市をbウルオした。これまで隣国間での戦争は、直接の被害に巻き込まれない限り、歓迎すべきことですらあったのである。

(8) 〔イ〕、こうした状況を一変させたのが、湾岸戦争である。アメリカはその費用を、戦争当事国でない国にまで課したのである。日本は米英に一三〇億ドルを拠出させられるにいたった。(9)

とはいえ、都市に軍備が必要なことは改めていうまでもないだろう。[Ⅳ]都市での飢餓の発生が戦争と密接に関係しているのも、戦争が都市の諸権力の安定した活動を背後で保障している国家権力を破壊するからである。都市は戦争ならずとも、都市を構成している権力の人的、物的資源の統合能力が総体として低下すると、衰退していった。(10)

都市は権力の拠点として繁栄の場でなければならなかった。そうでなければ、そもそも人間がその建設と維持に膨大な負担や犠牲をともなう都市を生み出す必要はなかった。歴史家F・ブローデル(注4)が、古今東西の都市を比較検討した結果、都市が建設されるのは、いま以上によい生活とは何かという場合にかぎられ、この規則に例外はないというのも、都市は人間が快適な生活を営むために形成されたものだからである。(11)

都市が農村より豊かな生活を営む場所であるかぎり、人びとは、都市が劣悪な環境をもつ「墓場」や「蟻(あり)地獄」であろうと、都市に集まってきた。疫病や火災などの危険は人びとにとって、しょせん[c]グウハツ的なもの

でしかない。都市には豊かな生活を[d]キョウジュするチャンスがあった。このため都市には、権力者が必要とする以上の人間が集まってきた。しかし都市が過剰な人口を抱えることは都市の活力の源泉となる一方で、社会不安の種ともなった。そこにはさまざまな対立や抗争がもちあがったのである。［ウ］、権力はできるだけ不必要な人間の都市への居住を制限しようとした。それでも、人びとはそうした制限の隙を見つけては、都市へ流入していった。ところが、都市民の暴動は農民の暴動と違って、国家にとって危険きわまりないものである。こうしたことから、古来、国家は農民の都市への人口流入を避けるため、[V]しばしば都市人口の地方への分散を試みてきた。(12)

古代ギリシア人の地中海や黒海沿岸への植民活動は有名である。神託を経て行われた植民地の建設は、あくまで宗教的信念にもとづいた自発的行動という形をとった。しかしギリシア人の大植民行動の背後には、何といっても人びとの土地への[e]カツボウがあった。かれらは各地で自分たちのポリス(注5)を建設していった。ポリスの人口は植民によって調節されていたのである。(13)

余剰人口の増大は不必要な軋轢（あつれき）を生み出す。わけても都市の過剰人口は危険であった。かれらはしばしば[f]フオンな動きをする。江戸は幕藩体制の

拠点として発展するにつれ、「江戸にいけば食べられる」として、諸国から多くの人たちが集まってきた。⒁

（注６）荻生徂徠（おぎゅうそらい）は治安対策の側面から、無制限に膨張していく江戸に警鐘を鳴らした。江戸には農村からの流民が集まり過ぎ、一旦ことがあると江戸城の安全すら脅かしかねなかった。かれの目には、江戸の余剰人口が幕府を動揺させかねない、危険このうえないものと映っていた。そして徂徠の死後四年目にして、暴動は現実のものとなったのである。⒂

資本主義の発展で、都市は未曾有（みぞう）の規模にまで膨張した。都市には、大量の労働者が産業化が生み出す富の分け前に与（あずか）ろうと流入していたのである。しかし資本主義的企業は政治権力や宗教権力によって構成された機関以上に、興亡を繰り返した。資本主義的企業の盛衰にともなって、都市には大量の失業者が生み出されたのである。都市の過剰人口は〝失業〟という形態をとった。Ⅵ資本主義下における都市は労働運動の舞台となるのである。⒃

産業化による社会の流動化は、伝統的な人口抑制からの解放を意味する。ヨーロッパ諸国は産業化と衛生状態の改善で、人口が急増した。その勢いは、未曾有の膨張を続ける都市でも呼吸できなかったのである。このためヨーロッパから数千万人にのぼる人びとが、新大陸や植民地へと移住して

いった。(17)

農民が都市に流入しようとしたことは、共産主義国でも同じであった。ソヴィエトでも、都市は権力の担い手が住むところであった。しかも共産主義は計画経済が必要とする以上の人びとを都市に配置しようとはしなかった。それどころか、スターリン[注7]にいたっては、大土木工事やシベリアでの鉱山開発に必要な労働力を確保するために、余剰人口を次々と政治犯に仕立て上げていったのである。かれらの「収容所」（ラーゲリ[注8]）は、地方開発の拠点となった。(18)

共産主義国では、都市の余剰人口が計画経済の足枷となるものとして排除された。その結果、都市と農村との格差は縮小するどころか、かえって拡大していった。資本主義国では、都市は貧民の流入で豊かさが〈平均化〉するのに対して、貧民の流入を規制する共産主義国では、都市と農村の格差が資本主義国にも増して、一層大きなものとなったのである。(19)

（藤田弘夫『都市の論理』）

注1　イェリコやチャタル・ヒユク……イェリコはパレスチナ東部に位置する都市で、紀元前八〇〇〇年の時代の集落遺跡が発掘されている。チャタル・ヒユクはトルコ共和国コンヤ市南東部にある紀元前

六五〇〇年前後の都市遺跡。

2 絶対的余剰農産物……農村において、自家消費分を差し引いた後に残る農産物のこと。

3 社会的余剰農産物……農村において、自家消費分を削ってでも都市の需要に応じて供給することになる農産物のこと。

4 F・ブローデル……（一九〇二～一九八五）フランスの歴史学者。

5 ポリス……古代ギリシアの都市国家。

6 荻生徂徠……（一六六六～一七二八）江戸時代の儒学者。「死後四年目」の一七三二年に大飢饉（ききん）が起こった。

7 スターリン……（一八七八～一九五三）ソヴィエト連邦共産党指導者。

8 ラーゲリ……ロシア語で収容所、キャンプを意味する。

問一　空欄ア・イ・ウに入ることばとして最も適切なものを、次の中から一つずつ選べ。

ア　①　したがって　②　ついに　③　まして　④　もしくは　⑤　しかし

イ　①　ところが　②　そもそも　③　そのため　④　いわんや　⑤　ついに

ウ　①　けれども　②　さらには　③　したがって　④　あるいは　⑤　つまり

問二　空欄Xには「租税などを割り当てて負担させる」という意味のことばが入る。最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

①　負荷　②　付加　③　賦課　④　担保　⑤　負債

問三　空欄Ⅰ・Ⅱに入ることばの組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

① Ⅰ建設・Ⅱ犠牲
② Ⅰ施設・Ⅱ生活
③ Ⅰ安全・Ⅱ生活
④ Ⅰ生活・Ⅱ防衛
⑤ Ⅰ発展・Ⅱ衰退

問四　傍線部a・b・c・d・e・fを漢字に改めた場合、これと同じ漢字を用いるものを、次の中から一つずつ選べ。

a　ヨウサイ
① 景気フヨウ策を練る
② シュウヨウを積む
③ ヘイソクした時代
④ サイガイ救助
⑤ サイシンの注意を払う

b　ウルオ
① 条約をヒジュンする
② ジュンシンな気持ち
③ ヒョウジュン的な体格
④ 館内をジュンカイする
⑤ ジュンカツ油

c　グウハツ

① 事件にソウグウする　② グウスウ月

③ リュウグウ城　④ リハツ店　⑤ 子どものハツゼック

d　キョウジュ

① キョウジュンの意を表する　② 他人の考えにキョウメイする

③ キョウラク的な生活　④ 大企業がキョウゴウする市場

⑤ 大きなハンキョウを呼ぶ

e　カツボウ

① カッスイ対策をする　② 国土交通省がカンカツする土地

③ 部下を大声でイッカツする　④ カッショクの肌

⑤ 意見をソウカツする

f　フオン

① フツウ選挙　② 国家のフチンにかかわる大事

③ オンネンを抱く　④ オンケンな思想

⑤ オンダンな気候

問五　本文中の段落の末尾から次の文が脱落している。この文の入るべき最も適切な段落を、次の中から一つ選べ。

このことは、現代でも同じである。東京の繁栄は経済大国日本の繁栄として、ソウルの繁栄は韓国の繁栄として語られている。

①　第(3)段落　②　第(5)段落　③　第(7)段落
④　第(9)段落　⑤　第(11)段落

問六　本文はその内容から考えて、前半と後半の二つにわけることができるが、後半が始まるのは第何段落目からか。最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

①　第(8)段落　②　第(10)段落　③　第(12)段落
④　第(14)段落　⑤　第(16)段落

問七　波線部Ⅰ「都市はそれぞれが個性をもっており、どれひとつとっても同じものはない」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

① 巨大な権力がその目的を達成するために、どこでも同じように都市にさまざまな施設を建設するため

② 巨大な権力がその目的を達成するために、多種多様な担い手たちが活動するため

③ 都市の中核をなす権力が、歴史貫通的、通文化的な存在であるため

④ 都市の中核をなす権力の構成が、時代や文化によって多種多様であるため

⑤ 権力の拠点として、都市は農村よりも豊かな生活を営む場所であるため

問八　波線部Ⅱ「ローマの繁栄がローマ帝国の繁栄として語られたり」とあるが、そのように語られるのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

①　都市の多種多様な活動は、何らかのかたちで国家権力によってその安全が保障されているから

②　都市の多種多様な活動は、時代や文化によって構成されており、そこに個性がうまれるから

③　都市はその国家が豊かな生活を営むという目的のために建設した唯一の首都であるから

④　都市はどこでも国家権力によって建設されるが、歴史貫通的、通文化的な存在であるから

⑤　都市はそれぞれ個性をもっており、ローマにはローマ帝国の特徴が二重がさねされているから

問九　波線部Ⅲ「戦争は大量の人的、物的資源を動員する点で、すぐれて都市的行為である」とあるが、それはどのような意味か。最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

①　戦争とは、隣国の都市から大量の軍事物資を調達し、自国の農村を疲弊させて都市を豊かにするものである。

②　戦争とは、たとえ人びとの生活を圧迫し、軍拡競争は止められないのだとしても、人間の生活には欠かせないものである。

③　戦争とは、都市の繁栄を目的とする国家権力が都市の安全を確保するためには、いかなる犠牲を払っても必要な行為である。

④　戦争とは、国家の興亡をかけた一大行事であり、当事国のみならず隣国にも軍事費用を負担させて疲弊させるものである。

⑤　戦争とは、大量の人的、物的資源の供給を通じて、自国に活気と疲弊をもたらす一方で、当事国ではない他国の都市をも活気づけるものである。

問十　波線部Ⅳ「都市での飢餓の発生が戦争と密接に関係している」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

① 戦争によって都市が繁栄しなくなると、農村部からの食料供給がうまくいかなくなるため
② 戦争によって戦争当事国ではない国にまで膨大な軍事費用を拠出させることで、多くの国家権力が破壊されるため
③ 戦争によって国家権力が破壊されると、人的、物的資源の統合能力が低下して都市の生活は衰退していくため
④ 都市とは権力の拠点として、人間が快適な生活を営むために膨大な負担や犠牲を払って形成されるものであるため
⑤ 都市とは古今東西のすべての都市において例外なく、いま以上によい生活とは何かを求めて建設されたものであるため

問十一　波線部Ｖ「しばしば都市人口の地方への分散を試みてきた」とあるが、なぜそのようなことを行ってきたのか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

①　都市が過剰な人口を抱えることは、活力の源泉となる一方で、国家権力を脅かす都市民の暴動に結びつくから

②　都市が過剰な人口を抱えることは、社会の流動化を停滞させて、地方の繁栄を妨げるから

③　都市が豊かな生活を営む場所であるかぎり、農村の人びとは制限の隙を見つけては都市に流入してくるから

④　国家は宗教的信念にもとづいた自発的行動として、土地を求めて地中海や黒海沿岸に植民地を建設するから

⑤　国家は地方に新たな植民地を建設することで、都市に必要のない過剰な人口を計画的に調節するから

問十二　波線部Ⅵ「資本主義下における都市は労働運動の舞台となるのである」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

① 資本主義の発達により都市が膨張し、大量の労働者が豊かさを求めて農村から都市へと流入してくるため

② 資本主義的企業の興亡によって都市には大量の失業者が生み出され、対立や抗争が引き起こされるため

③ 無制限に膨張する都市では、農村からの流民によってその国家権力を破壊してしまうほどの暴動が引き起こされるため

④ 植民地への人口分散によって都市は人口を調整でき、労働者の繁栄を実現するすばらしい場所となるため

⑤ 資本主義の発達による産業化は社会の流動化を招き、労働者たちによる共産主義の計画経済が優位となるため

問十三　本文の内容と**合致しないもの**を、次の中から**二つ**選べ。

① 都市の繁栄はしばしば国家の繁栄を二重がさねにして語られてきた。

② 都市は、権力が必要と判断すれば、権力の目的達成のためのさまざまな施設をもつ拠点としてどこにでも建設された。

③ 都市にとって安全の確保は繁栄のために必要ではあるが、それは人びとの生活を圧迫するものでしかない。

④ 都市はたとえ戦争でなくても、基盤となる権力の人的、物的資源の統合力が失われれば衰退してしまうものである。

⑤ 都市にとって余剰人口の増大は不必要な軋轢を生みだし、基盤となる権力を破壊するような危険性につながる。

⑥ 資本主義国では都市への貧民の流入は、都市と農村との格差を増大させ、共産主義国では富を平均化させた。

問一

ア
イ
ウ

問二

問三

問四

a	d
b	e
c	f

問五

問六	問七	問八	問九	問十	問十一

問十二

問十三

第五講　傍線部理由説明問題解法　解答

問一

ア	イ	ウ
⑤	①	③

問二

③

問三

⑤

問四

a	b	c	d	e	f
③	⑤	②	③	①	④

問五

②

問六	問七	問八	問九	問十	問十一
②	④	①	⑤	③	①

問十二	問十三
②	③
	⑥